

2021年7月6日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学経済学部が新プログラム DEEP を創設 ー 経済学＋データサイエンスで DX を担う人材育成ー

慶應義塾大学経済学部は、デジタルトランスフォーメーション (DX) を担い、Society 5.0 時代の経済社会に貢献する人材を育成するためのデータサイエンス教育プログラム **DEEP (Data-driven Economics and Econometrics Programme)** を 2022 年度に創設します。

・ プログラム創設の背景

ビッグデータの急速な蓄積と利用の広がり、機械学習などの新たな分析手法の登場により、従来の経済学教育ではカバーされてこなかったデータサイエンスの知識と技能が経済研究の現場で要求されるようになりました。また、統計的因果推論の考え方が計量経済学でも広く導入され、データに基づいて経済政策の立案や効果の検証を行う枠組みである **EBPM (Evidence-Based Policy Making)** が注目を集めています。この新しい経済研究の流れに対応できる人材を育てることは急務です。さらに、Society 5.0 時代における DX 人材の欠如が、日本の競争力を低下させ持続的経済成長の足かせになると懸念されています。経済社会に貢献する人材の育成と輩出は本学経済学部の責務であることから、**DEEP** を創設します。

・ プログラムの概要

DEEP に参加する経済学部生は、経済学部が提供するカリキュラムの中からデータサイエンスにおいて重要とされる科目群を履修し、データサイエンスの基礎と経済分析への応用を体系的に学びます。そして、必要単位数を取得し、学習の集大成としてデータサイエンスを活用した成果物を提出した学生に修了証が授与されます。

1. **DEEP** のカリキュラムは、以下の 3 つの科目群で構成されます。

- データサイエンスの基盤となる数学と統計学を学ぶコア科目 (1・2 年生が対象)
- 高度なデータサイエンスの手法と応用を学ぶリサーチ科目 (3・4 年生が対象)
- データサイエンスの実践を学ぶ PBL 科目 (3・4 年生が対象)

2. 学習の集大成としての PBL (Project-Based Learning) 科目

PBL 科目の目的は、データサイエンスの学習を座学にとどまらず、現実の社会課題解決のためにデータサイエンスを活用する術を学ぶことにあります。そして、そこで完成させた成果物 (論文やアプリなど) の提出を **DEEP** の修了要件とします。また、研究会 (ゼミナール) での卒業論文や研究プロジェクトでの成果物も、研究内容が相当であれば PBL 科目の成果物と同等のものとして認定します。

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部・教育部等に送信させていただいております。

【問い合わせ先】

慶應義塾大学経済学部教授 中妻 照雄 (なかつまてるお) nakatuma@econ.keio.ac.jp

【本リリースの配信元】

慶應義塾広報室 (豊田) TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

Email : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>